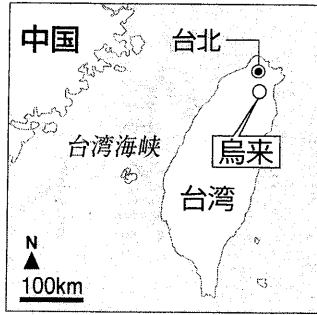


【台北―田中靖人】先の大戦で日本兵や軍属として出征した台湾先住民「高砂義勇隊」の戦没者を祭る台湾北部・新北市烏来区の慰霊碑が、台風13号による土砂崩れで倒壊していたことが25日までに分かった。区と共同で慰霊碑を管理している「烏来郷高砂義勇隊記念協会」は「今後、修復の方法を相談して決めた」としている。

同協会によると、台風13号が台湾本島を直撃した今月8日、慰霊碑裏の山肌が数十メートルわたって地滑りを起こした

台湾、台風で土砂崩れ



という。烏来の各地では道路が寸断され、現在も復旧作業が続いている。

「高砂義勇隊」慰霊碑が倒壊

慰霊碑がある「瀑布公園」の入り口は土砂でふさがれ、李登輝元総統が揮毫した台座があった場所にも土砂が堆積。慰霊碑の先住民像は倒木の下に埋もれているが、碑文などは記録があり修復可能という。

新聞の読者らの義援金を元に06年、現在の場所に移設された。台北県当局（当時）が「日本の軍国主義を美化している」として一時封鎖したが、地元の人々が裁判を起して和解し、10年に再整備された。

慰霊碑は1992年に遺族らが烏来の別の場所に建立したが、2003年に敷地を提供していた企業が倒産。産経

落石と倒木に埋もれた高砂義勇隊の慰霊碑の先住民像
 24日、台湾・新北市烏来区
 (田中靖人撮影)

